

マジックで世界一に



愛知教育大(刈谷市)の職員として勤務する傍ら、マジシャンとして国内外の大会に出場している。イタリアで五月に開かれたヨーロッパ最大級の「サン・バンサンマジック国際大会」ステージ部門で世界各国のマジシャンと競い、見事に優勝を果たした。

マジックの世界に足を踏み入れたのは関西大に入ってから。「他の人と違うことができるようになりたい」と奇術研究部の門をたたいた。四十人ほどの部員たちと互いに鍛え合い、四年次には全国の学生マジシャンが集う「学生マジック選手権」にも出場している。

「普段の生活で人に驚かれることなどほとんどないが、マジックではできる。それまで取りえも特になかったが、マジックは楽しく続けられた」。愛教大に就職後も、大学図書館で自主

向井 健人さん(26) 刈谷市井ヶ谷町

愛教大職員

公演を開いたり、学会のシンポジウムの余興に呼ばれたりの特技を生かす。

これまで一人でマジックをすることが多かったが、同国際大会では、大学の後輩である平野志穂さん(26)＝名古屋市中区、日本伝統の奇術「和妻」を独自にアレンジした演技に挑戦した。

花びらを扇子に変えたり、扇子が飛び出したり。衣装やBGMも和風にこだわった趣向と息の合った演技はイタリアの観客にも好評で、技が決まるたびに盛んに歓声と拍手が送られた。

「これまでの国際大会では、それぞれの国の特徴を出したマジックが多かった。二人の連携も良く和の雰囲気を受けたと思う」

七月には三年に一度開かれる世界最大のマジックコンベンション「FISM」へアジア代表として出場することが決まっている。前回に続いて二回目の出場で、「大会に勝つと他の大会からも声が掛かる。知名度を上げるためにも頑張りたい」と上位を目指す。

マジックには手先の器用さより発想力が大事という。「テレビと目の前で見るのでは迫力が全然違う。自分ができる範囲でファンを増やしていきたい」と話している。



「サン・バンサンマジック国際大会」ステージ部門で優勝した向井さん＝刈谷市井ヶ谷町で

むかい・けんこ 1991年、名古屋市中種区出身。関西大奇術研究部で腕を磨き、愛知教育大の面接試験でも仕込んでいたマジックを披露し、見事に採用された。刈谷市井ヶ谷町在住。